



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2021-92

(2022. 3. 29)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

2022年3月時点における信用金庫の店舗内店舗数

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 近年、店舗統廃合ではなく店舗内店舗制度を活用することで、物理的な店舗数の効率化に取り組む信用金庫が増えている。そこで今回、各信用金庫のHP（店舗一覧など）から2022年3月時点の店舗内店舗数を確認した※。
- 2022年3月時点の信用金庫の店舗内店舗数は、70金庫189店舗であった。2022年2月末の店舗数（7,131店舗）に対する実施割合は2.6%となる。
- 地区別では中国（店舗数対比で5.1%）、預金規模別では1,000億円未満（同3.9%）と2,000億円以上3,000億円未満（同3.8%）の実施割合が高かった。
- 店舗内店舗を実施する70金庫のうち、店舗数が10店舗以下は8金庫、店舗数対比で20%以上は4金庫、2011年4月以降の合併金庫は6金庫などとなった。

1. 店舗内店舗数の確認について

近年、店舗内店舗を実施し、店舗統廃合と同様のコスト削減などに取り組む信用金庫が増えている。店舗内店舗は、顧客の口座移管が不要で、店舗統廃合に近い物件費・人件費の削減効果が見込まれるため、メガバンクや地域銀行で実施事例が増えている。

一方、店舗内店舗は僚店内への移転出店のため、店舗内店舗数が増加するほど、統計上の公表店舗数と顧客接点である実店舗数との間に乖離が生じる可能性もある。

実際、日本経済研究センターの調査では、店

舗内店舗を考慮した地域銀行の実店舗数は公表店舗数より1割少ない結果だった^注。

そこで今回、信用金庫の店舗内店舗数について、実施金庫数および実施店舗数の状況を確認することにした※。

2. 店舗内店舗の状況

2022年3月時点の信用金庫の店舗内店舗数は70金庫189店舗となった。信用金庫対比では27.5%の信用金庫で、また店舗数対比（2022年2月末の7,131店舗対比）では2.6%の実施が確認された。

※店舗内店舗数の確認方法

- ✓ 本稿では店舗内店舗を、複数の店舗（本店、支店、出張所）が同一店舗内（同一住所）で営業する仕組みと定義する。また店舗を受け入れる側を母店、母店内に移転出店する側を子店と呼ぶ。
- ✓ 信用金庫のHPに記載される店舗一覧（重要なお知らせ、ニュースリリースなどを含む）で確認した。
- ✓ 子店数を店舗内店舗数としてカウントした。
- ✓ インターネット支店（非対面取引店舗）はカウントの対象外とした。
- ✓ 建替えに伴う一時的な店舗内店舗（仮店舗）はカウントの対象外とした。

注（公社）日本経済研究センター「2021年度金融研究
班報告②：地銀再編と地域金融の店舗戦略」を参照
（2021年12月13日公表）

(1) 地区別

2022年3月時点の地区別の実施状況をみると、全11地区で実施事例があった(図表1)。中国、南九州、東海の信用金庫で実施が目立ったほか、店舗数対比では中国が5%、南九州は4%を超えた。

(図表1) 地区別の店舗内店舗(2022年3月)

(単位: 金庫、店舗)

地区	金庫数		店舗数	
		うち実施		うち店舗内
北海道	20	5	492	16
東北	27	5	446	7
東京	23	7	914	14
関東	49	9	1,327	40
北陸	15	4	255	9
東海	34	12	1,341	36
近畿	29	8	1,185	25
中国	20	9	463	24
四国	10	2	191	2
九州北部	13	4	199	4
南九州	13	5	299	12
全国	254	70	7,131	189

- (備考) 1. 沖縄県は全国に含む。
2. 金庫数および店舗数は2022年2月末
3. 図表1・2とも信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(2) 預金規模別

(図表2) 預金規模別の店舗内店舗(2022年3月)

(単位: 金庫、店舗)

預金規模 百億円	金庫数		店舗数	
		うち実施		うち店舗内
150以上	24	13	1,870	59
~150	17	5	871	17
~100	25	8	956	18
~70	27	6	806	18
~50	46	8	1,070	28
~30	41	14	753	29
~20	22	5	290	6
~15	30	6	339	7
10未満	22	5	176	7
全国	254	70	7,131	189

(備考) 金庫数および店舗数は2022年2月末

2022年3月時点の預金規模別の実施状況をみると、1兆5,000億円以上の階層で半数超の信用金庫が店舗内店舗を実施している(図表2)。また、店舗数対比で1,000億円未満が3.9%、2,000億円以上3,000億円未満が3.8%などと

なるなど、預金規模(店舗数)に関係なく実施事例がみられた。

3. 実施金庫の特徴

2022年3月時点で店舗内店舗を実施する70金庫189店舗の特徴をみていく。

(1) 店舗数

店舗数が10店舗以下の信用金庫が8金庫あった。また店舗数に対する実施割合が1割を超える信用金庫が25金庫、2割を超える信用金庫は4金庫あった。

(2) 店舗の種類など

店舗種類別では、支店を子店とする店舗内店舗が177店舗となり、出張所の子店化は12店舗に留まった。

本店を母店に店舗内店舗を実施する信用金庫は14金庫・16店舗あった。そのほか、1つの母店に2つの子店が入った店舗内店舗は9金庫・10か所あった。

(3) 合併の有無

2011年4月以降に合併した信用金庫のなかで店舗内店舗を実施しているのは6金庫であった(この間の信用金庫合併は14金庫・15回)。

4. まとめ

今回は信用金庫店舗の所在地情報を用いて物理的な店舗数の再編状況を確認した。かつては重複店舗を抱える合併信用金庫が効率化のために店舗内店舗を活用することが多かったが、現在は地域や規模に関わらず実施事例が広がっている。

また、信用金庫の店舗戦略を概観すると、フルバンクサービスを提供する母店と機能を特化した子店への再編成や、平日休業を応用した交互営業(月・水・金営業と火・木営業の組合せなど)もある。今後はこうした機能面で店舗を再編成する動きにも注目したい。

以上